

第2回次期総合振興計画（区の将来像）に係る桜区検討懇話会

次 第

日 時 平成31年1月17日（木）

午前10時から

場 所 桜区役所3階第1会議室

1 開会

2 意見交換

(1) 「桜区の将来像」の見直しについて

3 閉会

【当日配付資料】

- ・ 次第
- ・ 委員名簿
- ・ 席次表

【事前配布資料】

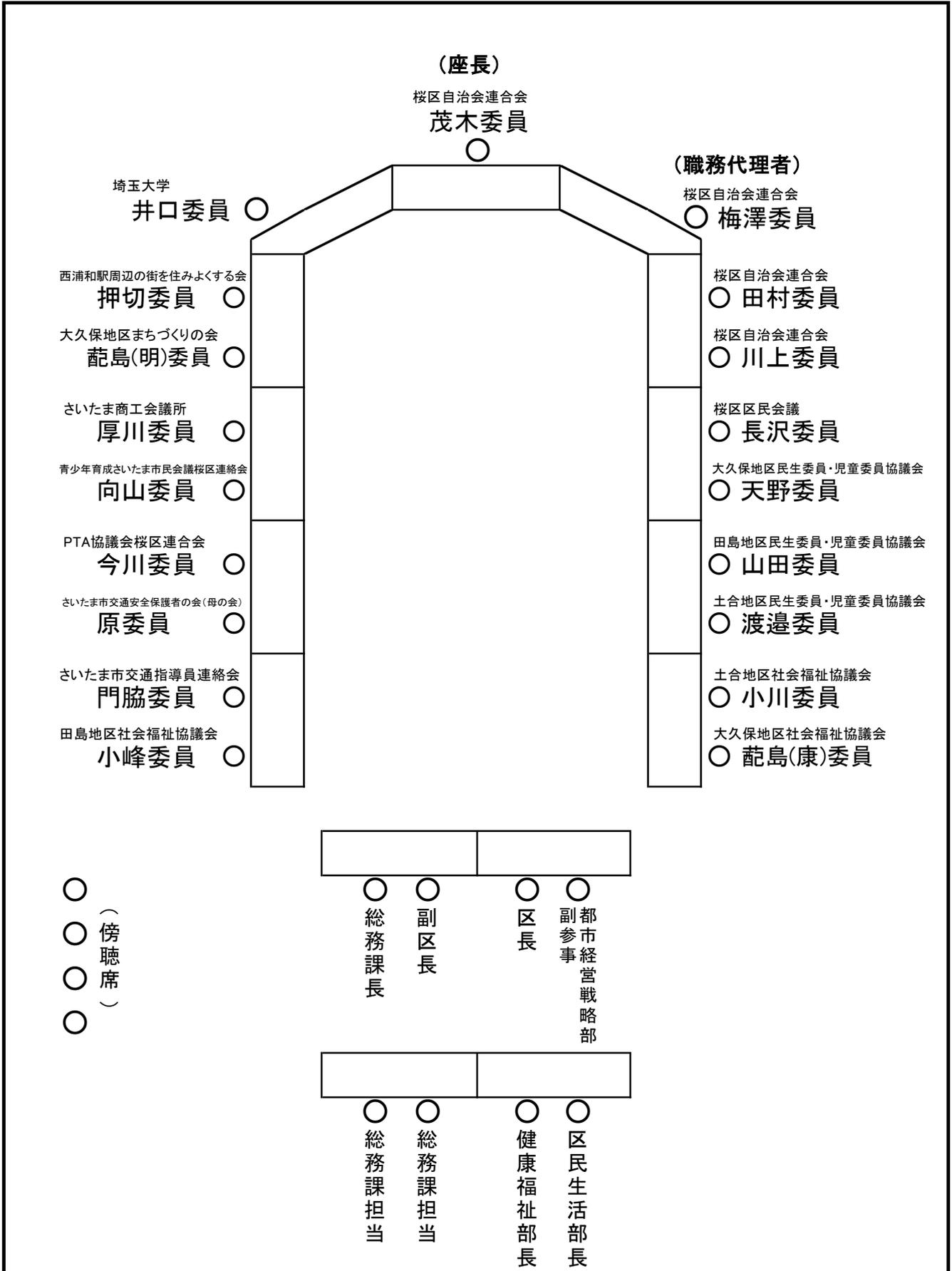
- ・ 第1回次期総合振興計画（区の将来像）に係る桜区検討懇話会委員発言要旨
- ・ 資料1 桜区の将来像検討資料
- ・ 資料2 桜区の将来像（懇話会意見反映版）

次期総合振興計画（区の将来像）に係る桜区検討懇話会 委員名簿

（敬称略）

No.	団体名	役職	氏名
1	桜区自治会連合会	会長	茂木 武久
2	桜区自治会連合会	副会長	梅澤 圭司
3	桜区自治会連合会	副会長	田村 良明
4	桜区自治会連合会	副会長	川上 強
5	桜区区民会議	副会長	長沢 正子
6	大久保地区民生委員・児童委員協議会	会長	天野 政則
7	田島地区民生委員・児童委員協議会	会長	山田 笑美子
8	土合地区民生委員・児童委員協議会	会長	渡邊 忠夫
9	土合地区社会福祉協議会	会長	小川 宅次
10	大久保地区社会福祉協議会	会長	葩島 康之
11	田島地区社会福祉協議会	会長	小峰 紀男
12	さいたま市交通指導員連絡会 桜支部	桜支部長	門脇 ふじ代
13	さいたま市交通安全保護者の会（母の会）桜支部	桜支部長	原 綾
14	さいたま市PTA協議会桜区連合会	会長	今川 夏如
15	青少年育成さいたま市民会議桜区連絡会	代表	向山 幸雄
16	さいたま商工会議所		厚川 俊子
17	大久保地区まちづくりの会	会長	葩島 明
18	西浦和駅周辺の街を住みよくなる会	会長	押切 勇
19	国立大学法人 埼玉大学	副学長	井口 壽乃

次期総合振興計画(区の将来像)に係る桜区検討懇話会 席次



次期総合振興計画（区の将来像）に係る桜区検討懇話会
委員発言要旨

開催日時：2018年12月3日（月）15：00～16：45

開催会場：さいたま市桜区役所

検討委員：

桜区自治会連合会 会長	茂木 武久氏（座長）
桜区自治会連合会 副会長	梅澤 圭司氏（職務代理）
桜区自治会連合会 副会長	田村 良明氏
桜区自治会連合会 副会長	川上 強氏
桜区区民会議 副会長	長沢 正子氏
大久保地区民生委員・児童委員協議会 会長	天野 政則氏
田島地区民生委員・児童委員協議会 会長	山田 笑美子氏
土合地区民生委員・児童委員協議会 会長	渡邊 忠夫氏
土合地区社会福祉協議会 会長	小川 宅次氏
大久保地区社会福祉協議会 会長	鮎島 康之氏
田島地区社会福祉協議会 会長	小峰 紀男氏
さいたま市交通指導員連絡会桜支部 桜支部長	門脇 ふじ代氏
さいたま市交通安全保護者の会（母の会）桜支部 桜支部長	原 綾氏
さいたま市PTA協議会桜区連合会 会長	今川 夏如氏
青少年育成さいたま市民会議桜区連絡会 代表	向山 幸雄氏
さいたま商工会議所	厚川 俊子氏
大久保地区まちづくりの会 会長	鮎島 明氏
西浦和駅周辺の街を住みよくなる会 会長	押切 勇氏
国立大学法人埼玉大学 副学長	井口 壽乃氏

委員：

西浦和駅周辺は開発が遅れているが、秋ヶ瀬公園周辺は自然に恵まれている。このスポーツ施設などを生かしたい。

委員：

商工会では後継者不足が問題になっており、会社ごと売却するケースがある。西浦和駅周辺の地域は他の地域からみると、バイパスからの出入りがわかりづらく、乗り入れもしづらいつとの意見が多い。

委員：

人口、世帯数から見ても桜区は住環境が整っているとは思わない。企業が少ない。子どもが少ない。移動することが少ないため、不便でもよいという高齢者が多い。調整区域は開発できず、市街化区域は乱開発されている。車に頼らざるを得ない地域が多い。埼玉大学に駅から歩いて行けないのは大都市として寂しい。埼大通りを拡幅してスピード化したバス路線を整備できないか。桜区の今後のインフラ整備に併せて小規模の区画整理ができないか。

委員：

「安心して子育て」というが具体性がない。幅員は広くても歩道が狭かったり、途中でなくなったりしてしまう道路が多い。子育てを終えた人、高齢者や障害者など世代の異なる人々との交流が可能となるイベントや場がほしい。区全体で盛り上げるべき。

委員：

西浦和駅周辺の開発については、駅までのアクセスが課題。子ども、高齢者、障害者にやさしいまちづくりが重要。

委員：

地域によっては75歳以上が20%以上と、高齢化の課題は多い。高齢者が交流する場所が少ないため、空き家が利用できるとよい。災害時、特に水害時に高齢者をどう避難させるか、具体的な防災計画が必要。

委員：

民生委員の対象は高齢者と子ども。高齢者は直接話ができるが、子どもに関しては保護者を介して接するため、状況を把握しづらい。こども食堂を検討してはどうか。ここを通して直接子どもと話すことができるのでは。

委員：

防災・防犯の観点から地域内でのコミュニケーションが課題。地域の人々が集まる場所をつ

くることや、見守りなどのボランティア活動を活発にすることが必要。埼大生と地域住民が協働して学習塾を開いている。また、地域住民の協力により、子どもたちに食事も提供している。

委員：

自治会活動等に取り組んでいる多くが高齢世代のため、次の世代にスムーズな引継ぎができるようにして、各世代による参加者をもっと増やしたい。

委員：

幅員や歩道に関し安全に通れる道路が少ない。桜区は高齢者が多いが、交通の便が悪いと車に乗らざるを得ない。子どもの交通安全に対しては、地域と学校による積極的な見守りにより比較的よくできていると思う。

委員：

桜区の悪いところをあげられているが、私はそうは思わない。もっとよいところを具体的にPRすべき。サクラソウや桜が咲いている時期や場所を紹介するなど、今あるものを熟知させることが重要。水害についても鴻沼川や鴨川の氾濫想定周知が足りない。

委員：

桜区のこれからの課題を整理し対応したい。大宮は住みたい街の上位、浦和区は人口が増加しているが、桜区は高齢化が進んでいる。総合振興計画では「若い力の育つゆとりある生活文化都市」の目標があり、埼大はその要となる場所。埼大は国内外から学生が集まり、人的・知的資源にあふれている。埼大の地域貢献としては、市民講座を連続して開催しており、高齢者のリピーターも多い。高齢者の移動手段が問題となっているならば、埼大の優れたテクノロジーで自動運転のミニバス開発など新しい取り組みを検討することもできる。文科省の助成もある。そのためには桜区の具体的な課題を探ることが重要。

委員：

地域の小中学校では、埼大生に勉強を教えてもらったり、話をしてもらったりすることを望んでいる。また、優れた技術でも桜区に貢献してほしい。

委員：

産業の誘致により魅力が広がる。行政として幅広く考えてほしい。

委員：

文言に「みんな」が多い。また、「三世代」というのも他の都市で掲げているのではないか。ポイント3については「豊かな生活文化があるまちづくり」がよいのではないか。

委員：

桜区では企業誘致が進んでいない。産業が集積しにくい。調整区域が多く開発は難しいが、企業が増えれば産学連携は進み、交通の利便性は向上し、人口増加につながる。桜区内に福祉会館がほしい。

委員：

桜区の発展のため、調整区域など行政的な枠の見直しも検討してほしい。

校区の将来像検討資料

	後期基本計画	第1回懇話会における主な意見	反映結果
将来像	<p>三世代がつくる元気印のまち —自然あふれる住みよい環境—</p> <p>校区には、桜草公園から続くグリーンベルトをはじめ、数多くの歴史的・文化的資源のほか、伝統ある埼玉大学、区民の活動拠点となるプラザウエストやスポーツ施設などがあります。今後、これらの地域資源を生かし、子どもから高齢者まですべての区民が生き生きと活動でき、ずっと住みたいと思えるまちを目指します。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「三世代」というのも他の都市で掲げているのではないか。 ・「豊かな生活文化があるまちづくり」という言葉を入れてみては。 	<p>三世代がつくる元気なまち —自然があふれ、人々がふれあう住みよい環境—</p> <p>校区は、西側を荒川が流れ、桜草公園、秋ヶ瀬公園から続くグリーンベルトや数多くの歴史的・文化的財産のほか、伝統ある埼玉大学、区民の活動拠点となるプラザウエストやスポーツ施設などがあります。これらの地域資源を生かし、豊かな生活文化を育むことにより、子どもから高齢者まですべての区民が生き生きと活動でき、<u>住み続けたいと思えるまちづくりを進めます。</u></p>
まちづくりのポイント	<p>1 「自然」と「便利さ」の調和する、住みやすいまちづくり</p> <p>(1) 自然と調和し、生活環境の整った、安らぎのある住みよいまちづくり (2) 地域の産業の活性化と、これを生かした、ふれあいやにぎわいを生むまちづくり (3) 公共交通の充実と、自動車・車いす・人・自転車安心してスムーズに移動できる道路の整備など交通環境の向上 (4) 自然資源や歴史的・文化的資源などの保全と、これら地域の財産を生かしたまちづくり (5) 一人ひとりの意識の向上と、地域の人々と行政のみんなで取り組むごみの減量化・リサイクルの推進によるきれいなまちづくり</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・秋ヶ瀬公園周辺のスポーツ施設などの活用を。 ・西浦和駅周辺はバイパスからの出入りが分かりづらく、乗り入れづらい。 ・車に頼らざるを得ない地域が多い。 ・埼玉大学に駅から歩いて行けない。 ・歩道が狭いなど、安全に通れる道路が少ない。 ・桜区のよいところをもっとPRすべき。 ・企業誘致が進んでいない。 	<p>1 自然と便利さが調和する、住みやすいまちづくり</p> <p>(1) <u>豊かな自然や歴史的・文化的財産の保全と、それらの積極的な活用</u> (2) <u>地域産業の活性化と、地域資源を生かした、ふれあいやにぎわいの機会の創出</u> (3) <u>地域に密着した道路整備などによる生活環境の向上</u> (4) <u>駅へのアクセスを含めた公共交通の充実などによる利便性の向上</u></p>
	<p>2 子ども、高齢者、障害者にやさしく、元気に暮らせるまちづくり</p> <p>(1) 安心して、しっかりと子育てのできるまちづくり (2) 子どもたちと地域の住民や大学生などが関わりを深めながら、たくましく育つまちづくり (3) 高齢者や障害者が暮らしやすく、元気に活躍できるまちづくり</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・多世代や地域間交流が可能となるイベントやお祭りなどを区全体で盛り上げるべき。 ・高齢者の交流が課題。集まれる場所が少ない。 ・埼玉大生と地域住民が協働して学習塾を開いている。 ・こども食堂を検討しては。 	<p>2 子ども、高齢者、障害者など、すべての人にやさしいまちづくり</p> <p>(1) <u>地域に暮らす様々な世代が支え合う、安心してしっかりと子育てができる環境の整備</u> (2) <u>子どもたちの健全育成に向けた、地域の人々や大学生などとの交流の促進</u> (3) <u>誰もが生き生きと暮らし、元気に活躍し続けるための機会の充実</u></p>
	<p>3 みんなが仲良く安全に安心して暮らせるまちづくり</p> <p>(1) 防災・防犯に行政と住民が協働して取り組む、安全で安心なまちづくり (2) 古くから住んでいる住民と新しい住民の交流や多世代の交流など、住民がコミュニケーションを深めながら、互いに連携し、誰もが参加して活動を継続できるコミュニティづくり (3) 自治会活動やボランティア活動など、子どもから高齢者までの地域住民の活動が盛んなまちづくり (4) 誰もが気軽に参加できる住民活動の機会や環境の充実 (5) 埼玉大学の英知や若さと連携したまちづくり</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・災害時、特に水害時に高齢者をどう避難させるか、具体的な防災計画が必要。 ・鴻沼川や鴨川の氾濫想定外の周知が足りない。 	<p>3 安心して暮らせる安全なまちづくり</p> <p>(1) <u>地域の人々と行政が協働して取り組む、地震対策や風水害対策の強化と防災意識の醸成</u> (2) <u>地域の人々と行政が協働して取り組む、防犯活動や交通安全運動の推進</u></p>
	<p>4 みんなでつくるまち</p> <p>(1) 「住民のやる気」を育む仕組みづくり (2) 地域の人々と行政が様々な情報を発信し合い、協働し、信頼関係を生み出すまちづくり</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自治会活動等に取り組んでいる多くが高齢世代。各世代による参加者をもっと増やしたい。 ・地域内のコミュニケーションが課題。ボランティア活動を活発にすることが必要。 ・埼玉大は国内外から学生が集まり、人的・知的資源にあふれている。子どもたちと埼玉大生との交流や、優れた技術で校区に貢献してほしい。 	<p>4 すべての人が参加するまちづくり</p> <p>(1) <u>自治会やボランティアなどと行政が協力して取り組む、地域活動の推進</u> (2) <u>地域に暮らす誰もが気軽に交流し、連携して活動することのできる機会の充実</u> (3) <u>地域の人々と行政が協働して取り組む、環境美化活動の推進</u> (4) <u>埼玉大学の英知の活用や若さあふれる感性との交流の促進</u> (5) <u>地域の人々と行政が情報を共有し、協働することによる、信頼関係に基づくまちづくりの推進</u></p>

三世代がつくる元気なまち

—自然があふれ、人々がふれあう住みよい環境—

桜区の将来像
(懇話会意見反映版)

桜区は、西側を荒川が流れ、桜草公園、秋ヶ瀬公園から続くグリーンベルトや数多くの歴史的・文化的財産のほか、伝統ある埼玉大学、区民の活動拠点となるプラザウエストやスポーツ施設などがあります。これらの地域資源を生かし、豊かな生活文化を育むことにより、子どもから高齢者まですべての区民が生き生きと活動でき、住み続けたいと思えるまちづくりを進めます。

1 自然と便利さが調和する、住みやすいまちづくり

- (1) 豊かな自然や歴史的・文化的財産の保全や、それらの積極的な活用
- (2) 地域産業の活性化と、地域資源を生かした、ふれあいやにぎわいの機会の創出
- (3) 地域に密着した道路整備などによる生活環境の向上
- (4) 駅へのアクセスを含めた公共交通の充実などによる利便性の向上

2 子ども、高齢者、障害者など、すべての人にやさしいまちづくり

- (1) 地域に暮らす様々な世代が支えあう、安心してしっかりと子育てができる環境の整備
- (2) 子どもたちの健全育成に向けた、地域の人々や大学生などとの交流の促進
- (3) 誰もが生き生きと暮らし、元気に活躍し続けるための機会の充実

3 安心して暮らせる安全なまちづくり

- (1) 地域の人々と行政が協働して取り組む、地震対策や風水害対策の強化と防災意識の醸成
- (2) 地域の人々と行政が協働して取り組む、防犯活動や交通安全運動の推進

4 すべての人が参加するまちづくり

- (1) 自治会やボランティアなどと行政が協力して取り組む、地域活動の推進
- (2) 地域に暮らす誰もが気軽に交流し、連携して活動することのできる機会の充実
- (3) 地域の人々と行政が協働して取り組む、環境美化活動の推進
- (4) 埼玉大学の英知の活用や若さあふれる感性との交流の促進
- (5) 地域の人々と行政が情報を共有し、協働することによる、信頼関係に基づくまちづくりの推進